

2013 年 11 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日に東京科学大学病院で 食道癌・胃癌・大腸癌に対して治療を受けられ、本学の バイオバンク事業 (G2000-157) にご参加いただいた患者さんへ

「食道癌・胃癌・大腸癌における遺伝子変異と予後因子の関連解析研究」に対する研究協力をお願い

食道癌・胃癌・大腸癌などの消化管に発生する癌は頻度の高い疾患です。手術技術、放射線治療、新規抗がん剤や免疫治療の進歩などにより各種癌に対する治療成績は向上しておりますが、進行例に対しては、標準的な治療によっても根治的な治療は困難です。いずれの癌種においても、様々な環境要因、あるいは稀に胚細胞の遺伝子変化と異常蓄積により発癌に至ります。特に発がんを強力に引き起こす原因とされるドライバー遺伝子に対する特異的阻害薬は標準的治療として用いられておりますが、その治療成績は人によって異なり、再発する人、しない人、抗癌剤や放射線治療が良く効く人、効かない人の予測は治療の前には困難です。逆に言えば、治療前に予後や投薬に対する効果が予測できれば、より適切な術式・治療選択が可能になることが期待されます。

この研究では、今までに東京科学大学病院で食道癌・胃癌・大腸癌の治療を受けられた方で、本学バイオバンク事業 (G2000-157) にて包括同意が取得され、本学バイオバンク事業 (G2000-157) の研究対象者のうち、がん患者さんを対象として実施された既存の研究により得られた遺伝子変異情報を有する方々に関して病理組織所見と臨床情報、さらに遺伝子変異データも合わせて解析することで、治療成績や化学療法または (化学) 放射線療法に対する効果といった臨床情報の関連性を調べます。

匿名化によりあなたのプライバシーは守られます。研究への協力はあなたの自由意思であり、拒否されてもあなたが不利益をこうむることはありません。拒否される場合には下記までご連絡ください。研究対象からはずさせていただきます。

(1) 研究の概要について

研究課題名：食道癌・胃癌・大腸癌における遺伝子変異と予後因子の関連解析研究

(承認番号 I2026-071 番)

研究実施期間：研究実施許可日から 2031 年 3 月 31 日

研究責任者：東京科学大学病院消化管外科 教授 絹笠 祐介

(2) 研究の意義・目的について

食道癌・胃癌・大腸癌における病理組織所見、遺伝子変異データを臨床情報と合わせて解析します。さらに、化学療法・放射線治療への反応や予後に関連するバイオマーカーを同定することで、より適切な治療選択を行うことを目的としています。

(3) 研究の方法について

2013 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日にまでに当院消化管外科で食道癌・胃癌・大腸癌と診断され、治療を受けた方々 (20 歳未満の方は除外) で、東京科学大学バイオバンク事業 (G2000-157) において包括同意が取得され、かつ、本学バイオバンク事業 (G2000-157) の研究対象者のうち、がん患者さんを対象として実施された既存の研究により遺伝子変異情報が取得さ

れている方々に関して病理組織所見、臨床情報（年齢、性別、左右、併存疾患、既治療有無、病気の進行度、大きさ、部位、再発や死亡までの日数、治療法、術式、病理標本所見、照射方法、化学療法の種類、化学放射線療法の効果）、さらに遺伝子変異データを合わせて解析します。解析されたデータに基づき、必要に応じ、組織検体の免疫染色を行います。遺伝子変異情報と臨床情報、病理組織学的情報との関連を検討し、食道癌・胃癌・大腸癌の予後関連因子を検討します。既に集められた試料を用いるので、特に追加で行われる処置などはありません。当院で癌の生検や手術を受けられていない方は対象外になります。

（４） 予想される結果（利益・不利益）について

この研究に参加することで、あなた自身にとっては、直接的な利益はないかもしれません。しかし研究によって今後あなたと同じ病気の患者さんに対する有用な検査・診断法が開発されるなど、社会全体に利益が還元される可能性があります。なお、この研究は、すでに採取された試料を用いて行われる研究であり、あなたが身体的な苦痛を伴う不利益を被る可能性は非常に低いと考えられます。もし、がんの遺伝子の解析をして、万が一に遺伝病に関連する遺伝子異常が偶然に見つかった場合は、倫理審査委員会に報告、対応を検討した上で、当院の遺伝子診療科等での遺伝カウンセリング等の受診を勧めたり、ご説明をしたりする場合があります。

（５） 個人情報保護について

研究にあたっては、データを個人情報で特定できない形で取り扱い、研究の発表時も個人情報は使用されません。

（６） 研究成果の公表について

この研究成果は、国内外の学会発表および学術論文として公表される予定です。

（７） 費用について

この研究への参加謝礼はありません。本研究にかかる対象者の方の自己負担はありません。

（８） 研究資金および利益相反について

本研究に利益相反はありません。本研究は大学の運営費を用いて行われ、研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、本学利益相反マネジメント委員会に対して研究者の利益相反状況に関する申告を行い、同委員会による確認を受けています。

【利益相反にかかる説明】

※利益相反とは、研究者が企業など、自分の所属する機関以外から研究資金等を提供してもらうことによって、研究結果が特定の企業にとって都合のよいものになっているのではないか・研究結果の公表が公正に行われらないのではないかなどの疑問が第三者から見て生じかねない状態のことを指します。

（９） 問い合わせ等の連絡先

連絡先：東京科学大学病院消化管外科 絹笠 祐介

〒113-8519 文京区湯島 1-5-4 5

TEL：03-5803-5254 FAX：03-5803-4126（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）

苦情窓口：東京科学大学 研究推進部研究基盤推進課 生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日 9:00～17:00）